

ベイタウンがおもしろくなる方法

今、10月26日に向けて住民の手によるコンサートづくりが進められています(この号が皆さんのお手元に届くころには実施されているはず)。今回、この活動の特集に取り上げ「コミュニティ活動」について少し考えてみたいと思います。取材：佐藤

◆最近読んだ新聞の記事に、今アメリカで「エッジシティ」と呼ばれる郊外都市の建設が盛んに行われているが、一見、たいへん豊かに見える環境の中で実は住民の孤立化が進み、ひいてはコミュニティ自体の崩壊にもつながる恐れが生まれつつあるというのです。まさにベイタウンも「今、そこにある危機」を乗り越える時期にあるのではと、この記事をもとめながら考えました。



「ステージでの演奏活動とは違う、演奏者と聴衆が同じ目線で音楽を共有したい!」

そもそもこのコンサートはヴァイオリニストの御木マドカさんとピアニストの安藤歩さんの二人の在住音楽家の申し出から始まりました。その思いを受けて5番街での「ヴァイオリンとワインの夕べ」が行われ、さらに今回打瀬中学校の施設を借りての本格的なコンサート開催へと夢がふくらんでゆきました。

実際、8月初旬から準備が始まって、現在までに40人以上の住民が番街を超えて参加しています。チケット販売の依頼、小中学校との橋渡し、音響、チラシ作成(これについてはベイタウンニュースも協力しました)、会場づくり…コンサートを成功させたいというひとつの目的に、自分の力を発揮しようと集まった人たちです。なかには、きのうまで顔も知らなかった人同士と一緒に汗を流すといった光景も生まれています。

なぜ人々はお金にならないことにプライベートな時間を割いて協力するのでしょうか。「自分の力を生かしたい」「地域に貢献したい」「友だちをつくりたい」「いい音楽を地域に根づかせたい」…動機は人それぞれ。しかし、ひとつの行動を起こすことで思わぬ広がり生まれ、人と人が出会うことでエネルギーが膨張していくのがコミュニティ活動のおもしろさでもあるようです。

『幕張ベイタウンの小さなコンサート』を実現する会事務局の窪田欣志さん(5番街)は、「建物がいくら素晴らしくても、それにふさわしい中身がなくては“いい街”とは言えません。ベイタウンの住人はこの街が気に入って集まっているわけですから、他の町に比べて“自分たちでいい街を創っていこう”という気持ちは人一倍あるはず。ですから、住民一人ひとりが力を発揮してもらえば、これからますます楽しい街になると思っています」と話してくれました。そして、「無理をしない」「義務にしない」「楽しもう」をコミュニティ活動を続けていく上でのキーワードにあげました。



確かにコミュニティ活動は、「楽しさ」だけではやっていけない部分もあります。また一般的な自治会活動のように「楽しむ」要素の少ないものもあります。しかし、同じことでもイヤイヤやるのと楽しがってやるのでは天と地ほどの差があります。また楽しそうにやっている所へは人も集まります。

そういう意味では、今回のコンサートづくりに集まった人たちは楽しみ上手なのでしょう。演奏家から椅子運びにいたるまで自分の力を生かすことに喜びを見だし、演奏に聴き入る人々の顔を眺めて他では得られない満足感に浸る…こんな姿を見ていると、ゴルフやテニス、ドライブやスキーと同じくらい(それ以上に)おもしろい、そんなコミュニティ活動も実現不可能な夢ではないような気がしてくるのは私だけでしょうか。

「SH-1 街区の店舗について考えて見ませんか？」 Part II

今回は、同街区店舗の 24 時間営業問題に焦点を絞りました。

店舗の 24 時間営業問題は、8 月 27 日に行われた S H-1 街区の事業者による同地区の事業計画説明会席上で初めて明らかになりました。連合会では、9 月 9 日企業庁にて、店舗の 24 時間営業と駐車問題に関する企業庁並びに事業者の見解を聴き、開業時の具体的な対策を求めました。その間、連合会においても数回の会合を重ね、同問題に関する具体的な方針を決める為、各番街がそれぞれの方法で住民の意見を吸い上げる事にしました。

これを受け、8 つの番街で店舗の 24 時間営業に関するアンケートが実施され、下記のような結果となりました。10 月 1 日に再び企業庁で開かれた店舗の 24 時間営業に関する事業者の説明は、

- 店舗の従業員の教育を徹底させる。
- 他の迷惑になる顧客の来店を制限する。
- 来店客に駐車場利用をおねがいする。
- 警察による見回りの強化を要請して行く。というものでした。

連合会としては、その程度の対策は 24 時間営業を前提にしない場合でも、当然必要なものである旨伝えました。また、下記アンケート結果を受け、住民の多数意見と、既存や今後の店舗展開を考慮し、23 時までの営業を今後お願いして行く事に決定しました。一方事業者側は、連合会の方針を今回出店を予定している業者に伝え対策を要請しています。住民側とは継続的な話し合いによる円満な解決を希望しており、強行出店はありえない事を明言しています。

今回のアンケートを実施するまでは、ベイタウンの住民が 24 時間営業に対してこれほど厳しい目を向けているとは予想していませんでした。店舗の 24 時間営業も、利便性という面からは大事な要素ですが、ベイタウンの住民はそれよりも安全性と環境を重視したという結果が現れています。さらに、今回「24 時間営業のファミリーレストラン」が誘致された理由が、最初から 24 時間営業の店舗誘致を目指していたのではなく、発展途上にあるこの街での営業採算面から、大手各社にことごとく断られ、24 時間営業の店舗展開を基本とする店しか結果的に誘致できなかった処にもポイントがあります。

たしかに、街の中に家族で食事ができるレストランが少ないのは事実ですが、24 時間営業のファミリーレストランが私たちの食生活を豊かにしてくれるでしょうか？この街を日本のどこにでもあるような、何でも揃っている便利な町にしなければならないのでしょうか？街づくりとは、10 年、20 年あるいは一世代、二世代を経る事によって初めて完成されます。ベイタウンのコンセプトである「賑わいのある開かれた街」はあくまでも「この街が住宅地域である事」を前提に考えるべきであり、「賑わいの基準を考えるのは私たち住民」であると考えます。さらに、今後 24 時間営業の店舗として想定できる業種が、この街の付加価値を高めることよりも、むしろ逆の効果を生む事も心配しています。これを機会に街の今後のあるべき姿を考えて見る必要性もあるでしょう！

「24 時間営業のレストラン」が入居する予定の核店舗が位置する SH-1 街区も、私たちと同じ住宅地域です。生身の人間が居住し、生活し、日々を営む場所です。私たちの住宅地域からは距離があるため、影響が少ないと考えるのは危険です。そこには、やがて 960 戸が入居する事を私たちが考えるべきであると思います。

8 つの番街における「24 時間営業に関する」アンケート結果

※ このアンケートはパティオス 1・2・3・5・6・8・10・12 番街で実施、総配布数 969 枚中、498 戸が回答。

A	ファミリーレストランの 24 時間営業に賛成。					18 件	3.6%
B	とりあえず、営業させ問題があれば対応すべき（賛成）					53 件	10.7%
C	治安や環境が守られるならばなど条件付き賛成					35 件	7.0%
D	営業時間を（ 時）までとする。					計 282 件	56.6%
	21 時 2 件	23 時 234 件	24 時 26 件	1 時 17 件	2 時 3 件		
E	ベイタウンの住環境を守るため、24 時間営業には反対する。					103 件	20.7%
F	その他意見					7 件	1.4%

※ 個々の番街で設問の仕方が異なるため、標準的なものにまとめて集計致しました。（回答率 51.4%）

● 24 時間問題に関する皆様のご意見をお待ちしています。

（金）

迷惑駐車を注意しようとするによくこんな質問を受けます。なかにはベイトウンは駐車禁止でない街なので住居を買った、自治連合会は何の権限があって路上駐車を取り締まるのか、と凄まれ、注意した方に非があるかのようになることもあります。ここまで凄む人は少数ですが、路上駐車をする多くの方が「ベイトウンは駐車禁止ではない」ということを根拠にしています。ベイトウンは駐車禁止ではないのでしょうか、これは自治会連合会からの問いかけです。

先日「こむこむ」内の交通委員会による早朝の路上駐車調査に同行しました。土曜日の朝6時という事もあり、前夜からの駐車であっぴいでした。恐らく会社から帰ってそのまま路上駐車をしたものでしょう。これらの車両の1台1台に注意の紙を付け、車両のナンバーと時間、場所をメモしていきます。交通委員会はこの作業をすでに十数回も行い、膨大な資料を蓄積しています。その結果分かることは、特定の車両が常習的に駐車違反をしているということです。ここで私は駐車違反という言葉を使いました。駐車禁止のない街ベイトウンで、駐車違反ということがあるのでしょうか。

もちろんあります。昼間12時間、夜間8時間以上連続しての駐車、これは車庫法違反です。また交差点、横断歩道とその端から5m以内、バス停の表示板から10m以内の駐車、これらは立派な道路交通法違反です。そしてこれがこむこむで迷惑駐車を注意する事の法律的な根拠です。このことはすでに自治会連合会の交通委員会から全戸配布のビラでお知らせしてある通りです。

しかし、こむこむで路上駐車を注意するにはもうひとつ大きな理由があります。それは逆説的ですが、「ベイトウンを駐車禁止の街」にしないために、迷惑駐車を注意するということです。幕張ベイトウンは千葉県企業庁が土地を持ち、道路も企業庁が管理しています。そして日本で最初の沿道型住宅というコンセプトを守るため、千葉県警にも駐車違反の取り締まりを遠慮してもらっています。駐車違反を気にせず、買い物や荷物の積みおろしに気軽に車を止められ、そのことを住民自身が許容しあい、そんな風景が街の賑わいを醸し出す。ベイトウンに住宅を購入された方の多くが、この沿道型住宅の景観あるいは（口はばったいようですが）文化に1つの魅力を感じて、周辺地域よりも割高なベイトウンを選び、ここに住むことを決められたのではないのでしょうか。しかし、一部の人たちはこの点を都合よく解釈し、路上を自分専用の駐車場として使っています。あたかも青空駐車をできる

ことが割高な住宅購入費の埋め合わせをするかのように、各番街の駐車場を借りず（あるいは借りたとしても使わず）、玄関近くの路上に青空駐車を繰り返す。その結果見通しの利かなくなった交差点や路上で事故がつづく、10番街、8番街、5番街の交差点では過去に何度も車が大破する事故が繰り返されており、人身事故がないことが不思議なくらいです。

そして、事故の増加に対する懸念や、面倒でもきちんと駐車場を利用する住民の皆さんの反発の声も大きくなってきており、千葉県警に取り締まりを直接依頼する方も居られます。このような状態が続けばどうなるのか、事故の増加や住民の反発に押されて企業庁は「駐車禁止のない街」という看板を下ろさざるを得なくなり、全国どここの街にもあるようにミニパトがベイトウンの中を走って駐車違反を摘発する。そして沿道型住宅の魅力などは吹き飛んでしまうでしょう。今、私たち住民自身が沿道型住宅の文化を考え自分たちで育てていかない限り、この街が全国どこにもある新興住宅地となら変わりのない街になってしまうことは目に見えています。買い物の後、子どもの塾への送り迎えに間があるのも、少しの時間路上に車を止めておく。週末に友人が遊びに来たので、住宅脇の路地に車を置かせてもらう。そんな事まで自治会連合会は規制しようとしているのではありません。しかし、このままでは私たちが好むと好まざるに関わらず警察が規制してくれることになるでしょう。

ベイトウンは駐車禁止ではないのに、なぜ自治連合会は路上駐車を排除しようとするのか

この街は、既存の街と違い何もない海の上にいけば突然できた街です。道路や建物はコンクリートを流せばできます。しかし、住み方のモラルやルールは最初にここに住む私たちが試行錯誤しながら創り上げていかなければなりません。幸いにも今は行政側もこれを認め、期待させています。私たちはこのベイトウンの初代住民であり、フロンティアであります。誇りをもってこの街に住もうではないですか。（松村）



エコメッセちば 1997 が幕張新都心で開かれました。

エコメッセちば実行委員会 小川かほる（パティオス 18 番街 208 号）



ソーラーカー・低公害の市中パレード アース君を先頭に、朝日ソーラーカーラリー参加車や低公害車、東金西中学校の吹奏楽部、県内環境保全団体をネットワークする「環境パートナーシップちば」をPRする花嫁さんのパレードがシャープビルを出発するところです。

ドイツで行われているような環境のイベントを目標に、幕張メッセにもひっかけて「エコメッセちば」という名称にしたのです。

このことを言い出した人達がまず「言いだしっぺ会議」を開き、仲間をなかば強引に？集めました。草の根的に動き出したものですから、当初は予算なんてありません。それで、知恵をひねり出したのが、一品持ちよりパーティのように、環境に関するイベントを持ち寄る「イベント持ちよりイベント：エコメッセちば 1996」です。幕張新都心全域を使って、去年は 19 の、今年も 23 のイベントを開催しました。80 人以上からなる実行委員会（企業、市民、行政から構成）はそれはもう壮観です。ここでは、皆が対等で、できることを出し合う関係ができています。

今年も雨模様になりましたが、2 日目の午後には晴れ間が広がり、海浜幕張公園では、多くの人が集まり、環境について、ちょっと考え、大いに楽しんだのではないのでしょうか。

紙面の都合で、全てのイベントをご紹介できませんが、ベイタウンの皆様へ、お得なイベントをお知らせします。ぜひ、来年は参加してください。



ミニソーラーカー試乗会 初めて乗る、ソーラーカーの乗り心地はどうだったかな。

エコメッセちばは、環境について深く考え、自主的に活動する人々の集まりです。パートナーシップ型社会実現のための壮大な実験と言ってもよく、広く参加を呼びかけています。ぜひ、来年はベイタウンの皆様による環境イベントの参加をお待ちしています。

エコメッセちばは、持続可能な社会をつくるために必要な、環境のために行動する多くの人との出会いと交流の場を創出することをねらって、開催されます。きっかけは、2 年前にこの幕張地区で開催された「環境シンポジウム千葉会議」（主催：同実行委員会・千葉県環境財団）と「朝日ソーラーカーラリー」（主催：朝日新聞社他、協賛：シャープ）です。千葉会議は市民・企業・行政のパートナーシップにより運営されていますが、この会議からエコメッセちば実行委員会が生まれました。

名前の由来は、1976 年にドイツ、ザスバッハという町で、ソーラー設備などを中心に初めて開催されたイベント「エコメッセ」です。以来、環境にやさしい商品の展示・販売や環境教育を主要なテーマとして開催されています。ベイタウンの隣には「幕張メッセ」がありますね。われらがベイタウンや業務・商業地区とともに、幕張新都心として新しい街づくりを行っています。環境のお祭りのアイデアがでたときに、幕張メッセにもひっかけて「エコメッセちば」という名称に



エコパザール 環境保全活動を行っている NPO（非営利団体）・企業のテントが並びました。

- 環境エコテクノロジースタンプラリー：東京電力や東京ガスの地域冷暖房システムであるコジェネレーション施設の探検や業務地区の各企業の環境に関する取り組みを知り、エコメッセの各イベントを訪ねるスタンプラリーです。各ポイントでのお土産がすごい。
- エコレストラン（ホテル）：幕張新都心の 6 ホテルのレストランで、環境にやさしいエコメニュー（地場産品・有機野菜等）がお得な値段で食べられます。イベントガイドを持っていくと、割引も。
- こども環境会議：こどもエコクラブに参加しているこどもたちを中心とする会議です。活動事例の紹介やワークショップをしました。

"蘇れ現代のガキ大将" / 広い心を育むフレンド遠足 /



打瀬小から
教頭 宋倉 喜巳

打瀬小学校では、子供がリーダーシップとフォロアーシップを学ぶ機会としてフレンド活動を教育課程に位置づけています。フレンド活動とは番街を同じくする異年令のグループをで行う教育活動のこと。フレンド遠足はその一つ、今年は、9月25日(木)に実施しました。方面の決定や活動の計画は子供の自主性に委ねています。実施した方面は、葛西臨海公園・動物公園・幕張の浜・幕張新都心ビジネス街。遠足実施後の6年児童の感想です。

ぼくらが、1年生の時どれだけ6年生に迷惑をかけていたか、当日あらためて実感し、自分が成長した証拠を1年生に見せてもらった気がしました。
(増井 大地)

遠足は、あまりよかったとは思いませんでした。しかし、6番街で1年生のお母さんから「今日は、どうもありがとう。」と言われてとてもうれしかったです。その時初めて、リーダーをやってよかったですと思いました。
(高橋 文美)

協力して完成した砂の芸術



下級生の面倒を見る上級生



ソバの茎は、なぜ赤い



先日、斉藤教頭先生と学校の回りの草を取りながら会話をしました。「ソバの花はすごいですね。種を蒔いて、2日間で予想だにしない大きな葉が出てくる。1週間後には花芽が見える。この成長の速さを生徒が見つけてくれるといいですね。」の問いかけに、「ソバ科の茎は、なぜ赤いか知っていますか」と質問されました。ホウセンカの茎の色は、花の色と一致している。その考えからするとソバの花は白い。茎の色はまるでフラミンゴの足のような色だ。言葉に詰まっていると、「ソバの茎の赤いのは冷たい水につかっていたから赤くなったという、民話があるんですよ。」ソバの白い花が咲きだしてから、ソバに関するいろいろの会話が耳に入り出しました。

ソバは、冷害と分かってから種を蒔いても収穫できる。種を蒔いて、45日で収穫できる。千葉でもソバの花は、どこでも見られた。

なかでも、教頭先生の「ソバの茎はなぜ赤い」という民話の話に感動しました。

ソバの赤い茎から、何人の生徒が民話や童話と結びつけることができるでしょう。一人一人の生徒の心に、いくつの民話や童話がしみついているでしょうか。

今、心の教育の大切さが言われております。ソバを見たら、ソバの茎はなぜ赤いかの民話が思い出せるような、打瀬のこどもにしたい。学校の回りには白い花が咲いています。

打瀬中から 校長 渡辺 昭



学校の周辺に咲くソバの花